

## 口は健康のもと Vol.215

### デジタル歯科治療① めざすレベルアップ

『むか～し昔、歯科治療には「歯型とり」といういや～な処置があつてのう、それはそれは大変じゃった...』とまではいきませんが、現在では、歯型をとることなくお口の中をスキャナー（口腔内スキャナー）で読みとるデジタル技法を利用して被せ物の製作が可能です。歯科治療にもデジタル化が進んでいるのは確かですが、以前として歯型とりを行いお口の石膏模型上で被せ物を製作するアナログな方法が主流です。これは最終的に被せ物のフチの部分を歯科技工士が確認し、最終調整を行うためです。このように歯科医療では歯科技工士による職人気質なアナログ製法に加え、デジタル製法が融合することにより被せ物の精度向上が日増しに進んでいます。このように歯科医療業界では、患者さんの不快感の軽減と歯科治療のレベルアップに日々取り組んでおります。なお、お口の中の状況によって口腔内スキャナーの読みとりがうまくいかないこともあります。治療の際は、かかりつけの歯科医師へご相談されることをおすすめします。

お口の健康は人生を楽しく生きる要素のひとつです、歯科治療も大事ですが、ご自身でのお口のお手入れこそが重要です。



奥羽大学歯学部附属病院

総合歯科 教授 羽鳥 弘毅

